

第9期 定時株主総会招集ご通知及び 株主総会資料②

目次

■連結計算書類

連結注記表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2ページ

■計算書類

個別注記表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9ページ

東京都目黒区三田一丁目6番21号

伊藤ハム米久ホールディングス株式会社

連 結 注 記 表

連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項等

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 52社

主要な連結子会社の名称 伊藤ハム(株)、米久(株)、伊藤ハム米久プラント(株)、伊藤ハム米久フーズ(株)、伊藤ハム販売(株)、伊藤ハムフードソリューション(株)、伊藤ハムミート販売東(株)、伊藤ハムミート販売西(株)、サンキョーミート(株)、米久かがやき(株)、米久デリカフーズ(株)、米久おいしい鶏(株)、ANZCO FOODS LTD.

なお、子会社はすべて連結されております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社数 9社

主要な会社等の名称 INDIANA PACKERS CORP.

なお、関連会社に対する投資については、すべて持分法を適用しております。また、当連結会計年度において、会社清算により1社減少しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、以下を除き、連結決算日と同一であります。

なお、ITO HAM AMERICA, INC. 他24社の決算日は12月31日であり、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの 時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、
売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

②デリバティブ

時価法

③棚卸資産

国内会社

商品及び製品(販売用食肉除く)

主として先入先出法による原価法

商品及び製品(販売用食肉)・
仕掛品・原材料及び貯蔵品

主として月別移動平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

在外会社

主として先入先出法による低価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産

(リース資産を除く)

国内会社

定率法

ただし、1998年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）並びに
2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法

在外会社

主として定額法

なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物

主として10～50年

機械装置及び運搬具

主として4～10年

②無形固定資産

定額法

(リース資産を除く)

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間
(5年～10年)に基づいております。

③リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、当社及び国内連結子会社は、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。また、在外連結子会社は相手先毎に回収不能見込額を計上しております。

②賞与引当金

従業員賞与の支払に備えるため、当社及び国内連結子会社は、支給見込額に基づき計上しております。

③役員賞与引当金

役員賞与の支払に備えるため、一部の国内連結子会社は、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、為替差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は各子会社等の決算日の直物為替相場により、収益及び費用は期中平均為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(5) ヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替予約取引について振当処理の要件を充たしている場合には振当処理を行っております。

また、金利スワップ取引について特例処理の要件を充たしている場合には特例処理を行っております。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

ヘッジ対象

為替予約

外貨建予定取引

金利スワップ

借入金利息

③ヘッジ方針

実需の範囲内で行うこととし、投機目的の取引は行わない方針であります。為替予約は為替変動リスクをヘッジするため、金利スワップは金利変動リスクを回避する手段として、社内管理基準に基づくリスク管理体制をとっており、金利スワップについては、資金担当部門にて一元管理を行っております。

④ヘッジ有効性評価の方法

為替予約取引については、ヘッジ対象の相場変動の累計とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しております。なお、振当処理を行った為替予約取引は有効性の判定を省略しております。また、特例処理の要件を充たしている金利スワップ取引は、有効性の判定を省略しております。

(6) のれんの償却に関する事項

のれんの償却については、20年以内の合理的に見積もった期間で均等償却をしております。

(7) その他連結計算書類作成のための基本となる事項

①退職給付に係る会計処理の方法

・退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

・数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11～12年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11～12年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。

・小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

②収益及び費用の計上基準

当社グループの主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。

加工食品事業	主に国内におけるハム・ソーセージ及び調理加工食品等の製造、販売
食肉事業	主に国内及び海外における食肉等の生産、処理加工及び販売

顧客との販売契約において、商品又は製品を引き渡す義務を負っており、これらの履行義務を充足する時点は、通常商品又は製品の引渡時であります。ただし、国内取引については、商品又は製品の出荷時から支配が顧客に移転される時までの期間が数日間程度であるため、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、主として出荷時に収益を認識しております。海外への販売については、貿易条件であるインコタームズに基づいて売主（輸出者）の危険負担の移転時点で収益を認識しております。

販売契約においてリベート等の条件が含まれる場合、顧客と約束した対価のうち変動する可能性のある部分について、将来収益の著しい減額が発生しない可能性が高い部分に限り取引価格に含めております。

販売契約における対価は、顧客へ商品又は製品を引き渡した時点から主として1年以内に回収しております。なお、重要な金融要素は含んでおりません。

③法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社及び一部の国内連結子会社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

会計方針の変更に関する注記

（「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当連結会計年度の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20－3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65－2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。これによる連結計算書類に与える影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当連結会計年度の期首から適用しております。なお、当該会計方針の変更による前連結会計年度の連結計算書類への影響はありません。

会計上の見積りに関する注記

食肉事業セグメントの商品及び製品に含まれる販売用食肉在庫の評価

①当連結会計年度末に計上した金額

販売用食肉在庫	83,330 百万円
簿価切下額	751 百万円

②その他見積りの内容に関する理解に資する情報

棚卸資産の貸借対照表価額は主として収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しており、連結会計年度末における正味売却価額が取得原価を下回る場合には、当該正味売却価額をもって貸借対照表価額としております。販売用食肉の正味売却価額は、見積売価から見積販売直接経費を控除して算定しております。過去の販売実績及び将来の販売見込み等に基づき見積売価を予測しておりますが、その予測には不確実性を伴うため、実際の販売価格との乖離が発生した場合は翌期の損益に重要な影響を及ぼす可能性があります。

連結貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額

200,032百万円

2. 担保提供資産

担保に供している資産		担保に係る債務	
現金及び預金	207 百万円	支払手形及び買掛金	122 百万円
建物及び構築物	1,070	流動負債「その他」	44
土地	571		
投資有価証券	8		
投資その他の資産「その他」	200		
計	2,057 百万円	計	167 百万円

3. 保証債務

被保証者	保証金額 (百万円)	被保証債務の内容
(有)キロサ肉畜生産センター	170	借入金
INDIANA PACKERS CORP.	1,422	借入金
	(US\$9,516千)	
(有)島根農場	147	借入金
ASIAN BEST CHICKEN CO.,LTD.	1,204	借入金
	(THB 273,775千)	
計	2,945	

4. 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は、次のとおりであります。

建物及び構築物	2,495 百万円
機械装置及び運搬具	1,466 〃
工具、器具及び備品	120 〃
土地	200 〃
計	4,282 百万円

連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株 式 数 (千 株)	当 連 結 会 計 年 度 増 加 株 式 数 (千 株)	当 連 結 会 計 年 度 減 少 株 式 数 (千 株)	当 連 結 会 計 年 度 末 株 式 数 (千 株)
発行済株式				
普通株式	57,471	—	—	57,471
合 計	57,471	—	—	57,471
自己株式				
普通株式（注）	756	0	19	737
合 計	756	0	19	737

(注) 自己株式の株式数の増加0千株は、単元未満株式の買取りであります。また自己株式の減少19千株は、譲渡制限付株式の付与によるもの17千株等であります。

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 当連結会計年度中に行った剰余金の配当

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2024年5月24日 取締役会	普通株式	7,089 百万円	125 円	2024年3月31日	2024年6月10日
2024年11月1日 取締役会	普通株式	3,971 百万円	70 円	2024年9月30日	2024年12月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2025年5月22日 取締役会	普通株式	4,255 百万円	利益剰余金	75 円	2025年3月31日	2025年6月6日

3. 当連結会計年度末における当社が発行している新株予約権の目的となる株式の種類及び数

普通株式	18,000 株
------	----------

金融商品に関する注記

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については銀行等金融機関からの借入により行っております。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については、毎月時価の把握を行っております。

借入金の使途は運転資金（主として短期）及び設備投資資金（長期）であります。なお、デリバティブは社内管理基準に従い、実需の範囲内で行い投機目的の取引は行わない方針であります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2025年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等は、次表には含めておりません（（注2）を参照ください）。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券	16,159	16,159	—
(2) 1年内返済予定の長期借入金	100	98	△ 1
(3) 長期借入金	20,240	20,065	△ 174
(4) デリバティブ取引			
ヘッジ会計が適用されているもの	△ 975	△ 975	—

（注1）「現金及び預金」「受取手形」「売掛金」「支払手形及び買掛金」「電子記録債務」「短期借入金」「未払金」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

（注2）市場価格のない株式等

区分	連結貸借対照表計上額（百万円）
非上場株式その他	1,335
関連会社株式	15,827

これらについては、「(1)有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

3. 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

有価証券及び投資有価証券

すべて上場株式であり、相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金

これらの時価は、返済期限ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等の適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

デリバティブ取引

為替予約の時価は、先物為替相場や取引金融機関から提示された価格等の観察可能なインプットを用いて算定しており、レベル2の時価に分類しております。

収益認識に関する注記

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	加工食品事業	食肉事業	計		
売上高					
ハム・ソーセージ	174,842	12,746	187,588	-	187,588
調理加工食品	140,423	22,069	162,492	-	162,492
食肉	81,015	527,725	608,740	-	608,740
その他	4,591	25,342	29,933	15	29,949
顧客との契約から生じる収益	400,872	587,883	988,756	15	988,771
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	400,872	587,883	988,756	15	988,771

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人事給与関連業務サービス等であります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、(連結計算書類作成のための基本となる重要な事項等)「4. 会計方針に関する事項 (7) その他連結計算書類作成のための基本となる事項②収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約残高

顧客との契約から生じた債権の残高は以下のとおりであります。なお、重要な契約資産及び契約負債はありません。

(百万円)

顧客との契約から生じた債権 (期首残高)	110,986
顧客との契約から生じた債権 (期末残高)	103,224

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループにおいては、予想契約期間が1年を超える重要な取引はありません。

賃貸等不動産に関する注記

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

1 株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 5,033円2銭
- (2) 1株当たり当期純利益 230円88銭

個 別 注 記 表

重要な会計方針に係る事項

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式及び関連会社株式	移動平均法による原価法
その他有価証券	
市場価格のない株式等以外のもの	時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)
市場価格のない株式等	移動平均法による原価法

(2) デリバティブ

時価法

(3) 棚卸資産

製品・商品	月別移動平均法による原価法
貯蔵品	月別移動平均法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法	ただし、1998年4月1日以降取得した建物（建物附属設備を除く）並びに 2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法によっております。 なお、主な資産の耐用年数は以下のとおりであります。 機械及び装置 4年～10年 工具、器具及び備品 3年～20年
-----	---

(2) 無形固定資産

定額法	なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5～10年)に基づいております。また、のれんについては、その効果が発現すると見積もられる期間(20年以内)で均等償却しております。
-----	--

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

・退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

・数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11～12年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 関係会社事業損失引当金

関係会社の事業の損失に備えるため、当該会社の財政状態等を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。

当社の収益は、子会社からの経営管理料、受取業務委託料及び商品の販売となります。経営管理料及び受取業務委託料については、子会社との契約に基づき経営管理及び受託業務を提供する事が履行義務であり、契約期間にわたって期間均等額で収益を認識しております。

商品の販売に係る収益については、以下のとおりであります。

加工食品事業 主に国内におけるハム・ソーセージ及び調理加工食品等の販売

食肉事業 主に国内及び海外における食肉等の販売

顧客との販売契約において、商品又は製品を引き渡す義務を負っており、これらの履行義務を充足する時点は、通常商品又は製品の引渡時であります。ただし、国内取引については、商品又は製品の出荷時から支配が顧客に移転される時までの期間が数日間程度であるため、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、主として出荷時に収益を認識しております。海外への販売については、貿易条件であるインコタームズに基づいて売主（輸出者）の危険負担の移転時点で収益を認識しております。

販売契約においてリベート等の条件が含まれる場合、顧客と約束した対価のうち変動する可能性のある部分について、将来収益の著しい減額が発生しない可能性が高い部分に限り取引価格に含めております。

販売契約における対価は、顧客へ商品又は製品を引き渡した時点から主として1年以内に回収しております。

なお、重要な金融要素は含んでおりません。

5. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替予約取引について振当処理の要件を充たしている場合には振当処理を行っております。

また、金利スワップ取引について特例処理の要件を充たしている場合には特例処理を行っております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…為替予約、金利スワップ

ヘッジ対象…外貨建予定取引、借入金利

(3) ヘッジ方針

為替予約は為替変動リスクをヘッジするため、金利スワップは金利変動リスクを回避する手段として、実需の範囲内で行うこととし、投機目的の取引は行わない方針であります。

為替予約については、為替リスク管理委員会を設置し、社内管理基準に基づくリスク管理体制をとっており、金利スワップについては、資金担当部門にて一元管理を行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象の対応関係を確認することにより、有効性を評価しております。

なお、振当処理を行った為替予約取引は有効性の判定を省略しております。また、特例処理の要件を充たしている金利スワップ取引は、有効性の判定は省略しております。

会計方針の変更に関する注記

（「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20－3項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。これによる計算書類に与える影響はありません。

表示方法の変更に関する注記

（貸借対照表）

前事業年度において、「流動資産」の「その他」に含めていた「関係会社短期貸付金」（前事業年度250百万円）は、重要性が増したため、当事業年度より独立掲記しております。

会計上の見積りに関する注記

食肉事業セグメントの商品及び製品に含まれる販売用食肉在庫の評価

①当事業年度末に計上した金額

販売用食肉在庫	64,440 百万円
簿価切下額	609 百万円

②その他見積りの内容に関する理解に資する情報

棚卸資産の貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しており、事業年度末における正味売却価額が取得原価を下回る場合には、当該正味売却価額をもって貸借対照表価額としております。

販売用食肉の正味売却価額は、見積売価から見積販売直接経費を控除して算定しております。

過去の販売実績及び将来の販売見込み等に基づき見積売価を予測しておりますが、その予測には不確実性を伴うため、実際の販売価格との乖離が発生した場合は翌期の損益に重要な影響を及ぼす可能性があります。

貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額

2,301百万円

2. 担保提供資産

担保に供している資産		担保に係る債務	
現金及び預金	60 百万円	買掛金	60 百万円
計	60 百万円	計	60 百万円

3. 保証債務

被保証者	保証金額	被保証債務の内容
ANZCO FOODS LTD.	40,924 百万円 (NZD 480,000千)	借入金
ASIAN BEST CHICKEN CO.,LTD.	1,204 百万円 (THB 273,775千)	借入金
農事組合法人 広島県東部養豚組合	750 百万円	借入金
伊藤ハムミート販売西㈱	19 百万円	貸借料支払
㈱マルフジ	41 百万円	仕入債務
㈲島根農場	147 百万円	借入金
計	43,088 百万円	

4. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（区分表示したものを除く）

(1)短期金銭債権	54,010 百万円
(2)長期金銭債権	1,788 百万円
(3)短期金銭債務	12,710 百万円

損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

(1)営業収益	562,224 百万円
(2)営業費用	221,128 百万円
(3)営業取引以外の取引高	4,710 百万円

株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(千株)	当事業年度 増加株式数(千株)	当事業年度 減少株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
自己株式 普通株式 (注)	756	0	19	737
合計	756	0	19	737

(注)自己株式数の減少はストックオプションの行使および譲渡制限付株式の付与等による減少であります。

税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

関係会社・投資有価証券評価損	860 百万円
貸倒引当金	840
賞与引当金	314
棚卸資産簿価切下げ	188
関係会社事業損失引当金	139
株式報酬費用	123
繰延ヘッジ損益	116
未払事業税	77
資産除去債務	45
その他	307
繰延税金資産 小計	3,014
評価性引当額	△ 1,806
繰延税金資産 合計	1,207

(繰延税金負債)

前払年金費用	△ 321
その他	△ 163
繰延税金負債 合計	△ 484

繰延税金資産の純額 723

2. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

関連当事者との取引に関する注記

1. 子会社等

種類	会社等の名称	資本金 (百万円)	議決権等 の所有(被 所有)割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	伊藤ハム㈱	400	所有 直接100%	当社食肉加工品の販売 資金の貸借 (CMS) 役員の兼任	食肉加工品の販売 (注1)	41,257	売掛金	3,401
					CMSによる 資金取引 (注2)	—	関係会社 預け金	41,875
子会社	米久㈱	400	所有 直接100%	当社食肉・食肉加工品の 販売 資金の貸借 (CMS) 役員の兼任	食肉・食肉加工品の販売 (注1, 3)	97,896	売掛金	8,800
					CMSによる 資金取引 (注2)	—	関係会社 預り金	1,269
子会社	伊藤ハム米久プラント㈱	90	所有 直接100%	当社原材料(食肉)の販売 資金の貸借 (CMS) 役員の兼任	原材料(食肉)の販売 (注3)	57,007	売掛金	4,119
					CMSによる 資金取引 (注2)	—	関係会社 預け金	1,387
子会社	伊藤ハム米久フーズ㈱	90	所有 直接100%	当社原材料(食肉)の販売 資金の貸借 (CMS)	原材料(食肉)の販売 (注3)	51,502	売掛金	3,394
					CMSによる 資金取引 (注2)	—	関係会社 預け金	1,343
子会社	伊藤ハムミート販売東㈱	90	所有 直接100%	当社食肉の販売 資金の貸借 (CMS)	食肉の販売 (注3)	132,426	売掛金	12,214
					CMSによる 資金取引 (注2)	—	関係会社 預け金	627
子会社	伊藤ハムミート販売西㈱	90	所有 直接100%	当社食肉の販売 資金の貸借 (CMS)	食肉の販売 (注3)	144,710	売掛金	13,250
					CMSによる 資金取引 (注2)	—	関係会社 預り金	1,497
子会社	I Hミートパッカー㈱	90	所有 直接100%	当社食肉の販売 同社食肉の購入 資金の貸借 (CMS)	食肉の有償支給 (注3)	23,968	未収入金	2,408
					食肉の購入 (注3)	41,913	買掛金	4,155
					CMSによる 資金取引 (注2)	—	関係会社 預け金	4,351
子会社	サンキョーミート㈱	230	所有 直接100%	同社食肉の購入 資金の貸借 (CMS)	食肉の購入 (注3)	66,110	買掛金	2,377
					CMSによる 資金取引 (注2)	—	関係会社 預り金	1,252
孫会社	ANZCO FOODS LTD.	(NZ\$59,364千)	所有 間接100%	同社食肉の購入	債務保証 (注4)	40,924	—	—

上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注1) 価格その他の取引条件は、製造原価等を参考に交渉の上、決定しております。

(注2) CMS (キャッシュ・マネジメント・システム) による資金取引については、取引が反復的に行われているため、取引金額の記載を省略し期末残高のみを表示しております。なお、金利については市場金利を勘案して合理的に決定しております。

(注3) 価格その他の取引条件は、市場実勢を参考に交渉の上、決定しております。

(注4) 金融機関からの借入に対して債務保証を行っております。

2. 役員等

種類	氏名	職業	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	宮下 功	当社代表取締役社長	(被所有)直接 0.0	-	自己株式の処分 (注)	13	-	-

(注) 譲渡制限付株式報酬制度に伴う、自己株式の割当によるものです。

1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額

4, 044円74銭
- (2) 1株当たり当期純利益

42円80銭

重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。